

事業報告書

Annual Report 2018

2017年12月1日～2018年11月30日

活動詳細は

ふくおかFUN



で検索!!



一般社団法人ふくおかFUN

〒819-0044
福岡県福岡市西区生松台3丁目19-5

tel : 092-407-6970

mail : uminogakko@fun-fukuoka.or.jp



NEW TOPIC



【アマモを増やして豊かな海に】

ふくおかF U Nでは、現在博多湾に「アマモ」を増やす取り組みに注力しています。「アマモ」とは、水深が比較的浅い沿岸砂泥地に自生する海藻類の一種で、その役割は非常に貴重なものであると考えられています。

- ・光合成を行い、水中に酸素を供給する(水質浄化作用)
- ・水中生物の産卵場所となる
- ・潮流を和らげ、外敵からの隠れ場ともなるため魚など水中生物の住処になる

上記のような環境保全の機能をもつことから、現在日本各地で保全・再生・造成の動きが起こっているもので、博多湾沿岸域においてもその取り組みが拡がりを見せています。今期、ふくおかF U Nでは、ダイバーの立場から「海のゆりかご」と呼ばれるアマモ場を増やすために、アマモ苗の植付けや経過観察、さらに、アマモの水中観察体験イベントや企業C S R活動の企画運営等を実施しました。

第4期を振り返って



ふくおかF U N設立から4年、皆様の支えあって今日を迎えることができました。前期の事業報告の際に課題や展望としてあげたことを常に念頭に置きながら、「ダイバーとしてできること」を考え、発信することに尽力してきました。

これまで私たちが継続して取り組んできた活動については、安全性やクオリティを向上させながら実施することを重要視しました。その上で、福岡の中心部・天神での写真展や、

福岡市との新たな共働事業(F U K U O K Aおさかなレンジャー)、「ジャパンフィッシングショー2018」での活動報告、博多湾のアマモ場造成・再生、企業C S R活動との連携など、新たな取り組みにも注力してきました。こうした活動に一つ一つ、スタッフ全員が想いと目標を持って向き合ったことで、今期も多くの地元メディアに取り上げていただき、間接的にもたくさんの方々へ福岡の海の現状について発信することができたと感じています。特にこの1年間は、私たちが向き合っている社会問題はダイバーの関わりが不可欠であることを実感しました。たとえば、博多湾の海底ごみ削減のために動き出した福岡市との共働事業については、「ダイバー」という立場から解決の糸口を模索し、新たな切り口で取り組んでいます。ですが、今後はダイバー以外の方々の関わりもさらに必要になってくるでしょう。私たちは、「だれにでもできる豊かな海づくり」の方法や考え方を伝える場もより多く創り出していきたい、そう考えています。



第5期に向けて

第5期は特に、「S D G s (エスディーゼーズ)※」の動きは無視できません。私たちふくおかF U Nは、この中の「14:海の世界を守ろう」というテーマを重要視した活動を継続するとともに、この目標を通じて、分野の異なる様々な機関と連携したり、これまでの活動では関わることのできなかった方々をターゲットとして捉えたりすることを目指していきたいと考えています。そして、私たちの活動や水中調査の結果を、子ども達や初めて知る方々にとっては分かりやすく、専門性の高い方々に向けては「ダイバーは貴重な水中の情報を持っている」と感じていただけるようにデザインしながら提供していきます。

また、第4期は様々な主体と連携しながら活動を実施することができるようになってきた一方で、活動のミッションも多様になってきました。課題解決の考え方や方法は本当に様々ですが、今後もふくおかF U Nとしては「何が正解か」ではなく、「何を大切にしたいか」ということを忘れずに活動を続けていきたいと考えています。そして、それぞれの活動・事業の目的や方向性を見失わず、関わる方々と誠実に向き合いながら着実に一步一步活動を進めていきます。

※「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」の略称であり、2015年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された2016年から2030年までの国際社会共通の目標のこと。S D G sは世界共通の17のゴール(目標)、目標ごとの169のターゲットから構成されており、国連に加盟している193の国・地域が2030年を期限に達成を目指すものです。



一般社団法人ふくおかF U N
代表理事 大神 弘太郎



【博多湾N E X T会議への参画】

2018年5月に、福岡市港湾空港局が中心となり「博多湾N E X T会議」が発足しました。これは、行政や地域、企業、市民団体、漁業関係者、教育機関等が一体となって、博多湾の環境保全と創造に向けて取り組むための新たなネットワークです。これまで、様々な立場や役割をもつ主体がそれぞれの手段で博多湾の環境を守り、良くしていくための取組みを行ってきましたが、これからは、その強みを活かしつつ、豊かな博多湾を次世代まで残すために手を取り合っていくことになりました。

私たちふくおかF U Nも、ダイバーとして、そして、福岡の水中生物や環境を伝えていくための非営利団体として、この会議の趣旨に賛同し、参画しています。第4期はこの「博多湾N E X T会議」の活動の一部をふくおかF U Nが委託事業として請け負い、市民参加型イベントの企画運営等を含むアマモ場づくりに携わりました。





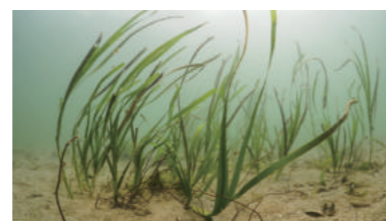
水中調査・撮影

調査水域の拡がり

第4期は、主に助成事業や行政との共働事業・委託事業の一環として、博多湾の定点調査を行いました。調査にあたっては、漁業者の皆さんのご理解とご協力をいただき、これまで調査の中心となっていた博多湾西部海域だけでなく、湾奥部の河口付近や東部海域、能古島、志賀島等においても実施することができました。

豊かな博多湾と、深刻な課題

調査場所の拡がりとともに、豊かな博多湾の水中世界と、生活排水の流入や有機汚濁による貧酸素状態といった課題を再認識することもできました。今後も多様な視点で私たちの海と向き合っていきます。



・助成：地球環境基金「LOVE BLUE助成」、東洋ゴムグループ環境保護基金



"ひろい"海の活動

実体験を通じた海とのふれあい

シュノーケリングを通じて子ども達が実際に地元の海に親しみ、そこに住む生き物とごみの現状を知る「"ひろい"海の活動」を第4期も継続しました。また、福岡市西区宮浦海岸において、自生のアマモ場をシュノーケリングとダイビングを通じて観察する体験イベント「アマモ探検隊!」を初開催しました。都会の子ども達が身近な海と触れ合えるこうした活動は参加者のリピート率も高く、今期は特に、世界的にも注目されているマイクロプラスチックを含む海ごみ問題について参加者の関心が高くなっていることも実感しました。

より高いところを目指して

ふくおかFUNならではの、この活動の継続にあたっては、今後はもう一度原点に帰り、安全性をさらに高めること、スタッフのスキルをより向上させることにより、一層質の高い環境教育の場としていくことを目指します。

・実施場所：新宮海水浴場（福岡県糟屋郡新宮町）、宮浦海岸（福岡市西区）
 ・参加人数：延べ168名（参加者、保護者含む）
 ・助成：地球環境基金「LOVE BLUE助成」、日本財団「海と日本プロジェクト」



海の学校

ダイバーだからこそ、伝えられる

第4期も福岡市内外の各地において、授業や講演、イベント出展を通じて、福岡の海の魅力と課題を発信しました。ふくおかFUNでは、福岡の海についての話をさせていただく場の一つ一つを大切に、主催者側と綿密に打合せすることで、その場の参加者や目的（ゴール）に沿った内容を構築することを心掛けています。

それぞれの視点を大切に

これまで壇上に立つのは代表の大神がほとんどでしたが、ふくおかFUNには「福岡の水中世界の様子をもっと多くの人たちに伝えたい!」という熱い想いをもつスタッフが増えたため、第4期は団体スタッフによるイベント進行や授業の機会も増やしました。スタッフもそれぞれ自分の言葉と感性を大切にしながら真剣に向き合っています。今後の事業展開にもご期待ください。

・実施場所：《授業》福岡市立北崎小学校、新宮町立新宮小学校、福岡県立福岡講倫館高校
 《講演》日本釣用品工業会「ジャパンフィッシングショー2018」、パタゴニア福岡、糸島うみかえる、山王ひなた美術教室「海と子どもの学びプロジェクト」、しんぐらキッズ自然塾、グリーン交流会in福岡、サイエンス☆どんたく ほか
 《イベント出展》環境フェスティバルふくおか2018（福岡市環境局主催）、サイエンス☆どんたく（福岡市科学館主催） ほか
 ・助成：地球環境基金「LOVE BLUE助成」、エコフープ環境助成金、東洋ゴムグループ環境保護基金



写真展・イベント

「楽しく」「リアル」な海を体感

誰も知ることでできない福岡の水中世界を伝える場として、また、海に潜ったことのない方々が福岡の海を体感できる場として、第4期も各地で写真・映像展を開催しました。2018年3月に福岡市の中心部・天神の「天神CLASS」で実施した「ふくおかのうみ展」には、期間中延べ約3,500名の方々にご来場いただき、多くの「福岡の海ってすごい!!」の声を頂戴することができました。

多様な関わりを生み続ける

その他にも、「マリンワールド海の中道」や、2017年にリニューアルオープンした「福岡市科学館」といった大型施設との連携が深まりました。また、新宮町でのお祭りや連動したイベントを実施するなど、写真と映像の展示だけではなく様々なコンテンツと合わせた企画展にすることで、これまでよりさらに活動認知度が向上したと言えます。

・実施場所：天神CLASS（ソニーストア福岡天神、あすみん、あいくる）、マリンワールド海の中道、シーオーレ新宮「しんぐらのうみ展」、福岡市役所「生きものと私たちのくらし展」、そびあしんぐら「しんぐらのうみ展」、福岡市科学館「サイエンス☆どんたく」
 ・助成：地球環境基金「LOVE BLUE助成」、東洋ゴムグループ環境保護基金



JIGYOHAMA IKIMONO PROJECT

第3期にスタートした福岡市環境局 保健環境研究所との共働事業「地行浜いきものプロジェクト～人工海浜に何がおると?～」も2年目となりました。福岡市の共働事業は、最大3年間という期間が定められているため、この1年は「発展」と「成果」を重要視し、事業を進めました。

アマモの植付けや竹魚礁の設置等の、人工海浜を豊かにするための様々な手法を、ダイバーと研究者が手を取り試行・検証し、市民参加型の講座において実践することで、観測生物の増加、そして市民の皆さんの環境への意識の高まりを実感することができました。また、福岡市の博多湾環境保全計画推進委員会においてもこの共働事業について委員から高く評価され、今後の活動の発展や広がりを期待されています。

このように、ふくおかFUNと福岡市の強みを活かした、共働ならではの効果的な事業を実施することで、単独では得ることができない効果がみられています。今後は、地行浜の環境の変化をより科学的に立証する方法の試行錯誤を続けていきます。また、2018年8月に開設したウェブサイトによる情報発信も強化し、より市民の皆さんに近いところで事業を展開していくことで、事業終了後への道筋をつけていく考えです。



第4期からはもう一つ新たな共働事業が始まりました。福岡市農林水産局 水産振興課との共働事業「FUKUOKA おさかなレンジャー～海底ごみから博多湾を守れ!～」です。福岡は「魚がおいしいまち」として知られており、博多湾でも多種多様な漁業が営まれています。その海中には海底ごみが堆積しており、漁業の操業や漁場環境に影響を及ぼす要因となっているのが実情です。これまで福岡市では漁業者と連携して海底ごみ回収を続けてきましたが、それだけでは解決が困難な状況であり、今回私たちダイバーと行政、そして漁業者が力を合わせて海底ごみ削減に向けた取り組みを行うこととなりました。

事業初年度となる2018年度は、まず漁業者と連携しながら博多湾沿岸域の海底ごみの調査・撮影を行っています。また、近い意識をもつ他団体の活動に私たち自身が参加し、繋がりを深めるとともに、今後の連携を強めていきたいと考えています。さらに、専門学校九州デザイナー学院の全面協力のもとで、この事業のシンボルとなるキャラクターも生まれました。今後は、博多湾の調査結果及びキャラクターを活用した啓発を行うことで市民の「reduce(=ごみを減らす)」意識の向上を図ること、多様な主体による海底ごみ削減ネットワークの企画・立ち上げを行うことで、海底ごみ削減に向けた動きを活性化していきます。

